

参加費
無料

正解のない時代に求められる 「決断」とは？

—未知の課題を解決する科学的アプローチを考える—

2021
11月30日 火
14:00-16:30
(受付開始 13:30)

会場

日本橋浜町 F タワープラザ
3階ホール (裏面参照)

申込

事前申込制 定員 80名
(裏面参照)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常よりも定員を減らしております。

プログラム

14:00	開始
14:05-15:35	第1部 基調講演 (90分)
15:35-15:45	休憩 (10分)
15:45-16:30	第2部 参加者とのディスカッション (45分)
16:30	閉会

新型コロナウイルス感染症対策をめぐる政治や行政の混乱ぶりはなぜ起こるのか？熱帯地方における森林伐採は私たちの暮らしにどんな影響があるのか？SDGsに向けて、どこからどのように取り組んでいったらよいのか？

未経験の感染症対策、頻発する自然災害、そして地球規模の環境問題など、現在はさまざまな課題が山積しています。さらに、未来には未知の課題も発生するでしょう。このような予測困難な事象の解決は、すべて人間の意思と行動に委ねられています。さまざまな不確実性の下で、価値観の多様性も考慮しながら、私たちはどのように決断を下していけば良いのでしょうか。

今回のセミナーでは、正解のない時代において合理的に意思決定を行うための科学的なアプローチである「決断科学」の考え方や事例について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

第1部 基調講演

やはら てつかず
矢原 徹一 氏

福岡市科学館館長、
(一社)九州オープンユニバーシティ理事



略歴

1954年福岡県生まれ。京都大学理学部卒。東京大学助手～助教授を経て1994年より九州大学教授、2020年3月に退職。同年10月より福岡市科学館館長。著書に『花の性』『決断科学のすすめ—持続可能な未来に向けて、どうすれば社会を変えられるか』『保全生態学入門—遺伝子から景観まで』（共著）。専門は生態学、進化生物学、持続可能性科学。アジア太平洋地域生物多様性観測ネットワーク議長として、国際的な生物多様性観測計画を推進

第2部 参加者とのディスカッション



矢原 徹一 氏
福岡市科学館 館長、
(一社)九州オープン
ユニバーシティ 理事



寺井 和弘 氏
公益社団法人
日本技術士会 会長



松田 光弘 氏
株式会社建設技術研究所
国土文化研究所 次長